

# 2010年3月期 第3四半期 業績の概況

- 連結業績の状況について
- 主要製品の売上高について
- 開発品の状況について
- 主な子会社の業績と予想について

2010年2月3日

株式会社キョーリン



# 2010年3月期第3四半期 決算概観(連結)

## 2010年3月期第3四半期(連結)業績

【売上】 国内新医薬品における主要製品の好調な推移、後発医薬品の伸長により、売上高は746億円(前年同期比12.4%増)となりました。

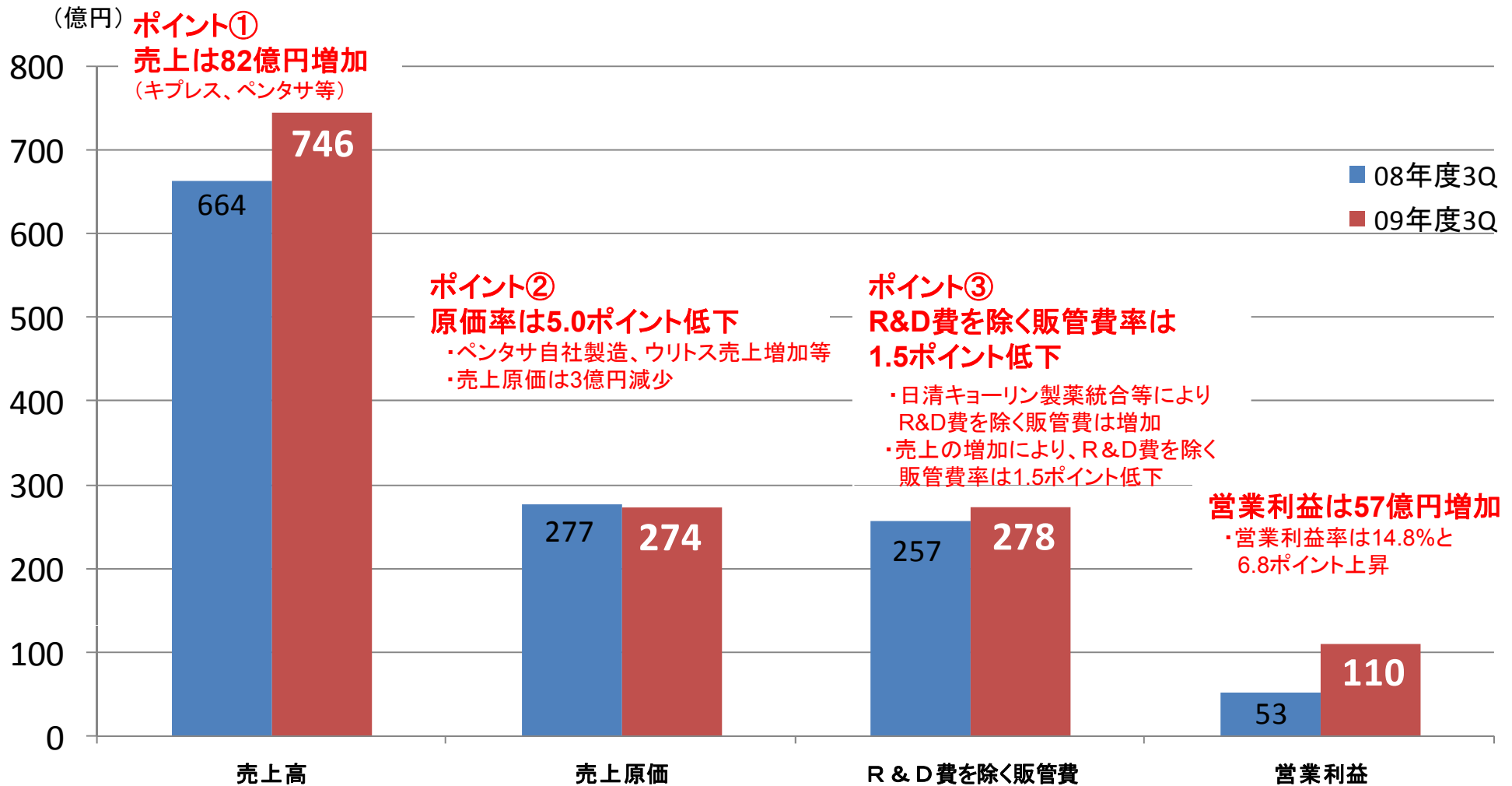
【利益】 日清キョーリン製薬(株)の統合により販売費及び一般管理費が増加しましたが、売上の増加と売上原価率の改善により売上総利益が増加し、営業利益は110億円(前年同期比106.9%増)、当期純利益は75億円(前年同期比794.7%増)となりました。

### ※通期の業績予想について

第3四半期累計期間までの売上は順調に推移しました。一方、販売費及び一般管理費の消化においては期ずれが生じているものの、今年度内の費用発生が予定されることから2009年11月10日に公表しました連結業績予想について現時点での変更はありません。

単位: (百万円)	07年3月期 第3四半期	08年3月期 第3四半期	09年3月期 第3四半期	10年3月期 第3四半期	前年 同期比	10年3月期 (予想)	前年 同期比
売上高	56,961	62,325	66,361	74,579	12.4%	99,500	9.5%
営業利益	5,814	5,788	5,339	11,045	106.9%	12,000	34.0%
経常利益	6,101	6,278	5,451	11,860	117.6%	12,800	39.0%
当期純利益	3,483	2,687	842	7,537	794.7%	8,100	297.6%

# 2010年3月期第3四半期 業績のポイント



# 2010年3月期第3四半期 業績の状況(連結)

単位:億円

	09年3月期 第3四半期 (実績)	10年3月期 第3四半期 (実績)	前年 同期比
売上高 合計	664	746	+82
◆新医薬品	555	631	+76
国内	530	612	+82
海外	25	19	▲6
◆後発医薬品	46	54	+8
◆ヘルスケア	54	53	▲1
◆その他	9	9	±0
営業利益	53	110	+57
経常利益	55	119	+64
四半期 純利益	8	75	+67

■ 売上高	746億円	前年同期比 (+82)
● 国内新医薬品	612億円	(+82)
	09.3(3Q)実績	10.3(3Q)実績
・キプレス	181	→ 216 (+35)
・ペンタサ	117	→ 152 (+35)
・ウリトス	13	→ 26 (+13)
・ムコダイン	153	→ 160 (+7)
* その他 ラピッドテストの売上増加等		
● 海外新医薬品	19億円	(▲6)
・ガチフロキサシ	19	→ 17 (▲2)
・ノルフロキサシンの売上減少等		
● 後発医薬品	54億円	(+8)
・追補品・承継品による売上増加		
● ヘルスケア	53億円	(▲1)
・ミルトン	14	→ 15 (+1)
・ドクタープログラム社	26	→ 25 (▲1)
● その他	9億円	(±0)
◆ 原価率: 前年比 5.0ポイント低下 (41.8%→36.8%)		
低下要因: ペンタサ自社製造、ウリトスの売上増加等に伴い低下		
◆ 研究開発費率: 前年比 0.3ポイント低下(11.4%→11.1%)		
研究開発費: 76億円→83億円(約7億円増加)		
増加要因: 日清キョーリン製薬の統合		
◆ 販管費率(除くR&D費): 前年比 1.5ポイント低下(38.8%→37.3%)		
販管費(除くR&D費): 257億円→278億円(約21億円増加)		
日清キョーリン製薬の統合による影響などにより販管費(除くR&D費)は増加したものの、売上増加により販管費率(除くR&D費)は1.5ポイント低下		
■ 営業利益	110億円	(+57)
* 営業利益率は14.8%と6.8ポイント上昇		
■ 四半期純利益	75億円	(+67)

# 2010年3月期第3四半期連結会計期間 業績の状況

単位:億円

	09年3月期 第3四半期 会計期間 (実績)	10年3月期 第3四半期 会計期間 (実績)	前年 同期比
売上高	261	289	+28
売上原価	100	104	+4
売上比率	38.4%	36.0%	(2.4ポイント低下)
売上総利益	161	185	+24
販売費及び 一般管理費	120	120	±0
研究開発費	26	26	±0
研究開発費を 除く販管費	94	94	±0
営業利益	41	65	+24
経常利益	43	67	+24
四半期純利益	24	42	+18

## ポイント

※日清キョーリン製薬の統合(08年10月)  
から1年経過  
※杏林製薬の主要製品は順調に推移  
キプレス+12億円、ペンタサ+9億円  
ウリトス+3億円、ムコダイン+1億円

※原価率の低いペンタサ、ウリトスの  
売上増加など  
(2.4ポイント低下)

※営業利益は65億円と前年同期比  
24億円の増益

当第3四半期連結会計期間の業績も順調に推移

# 2010年3月期第3四半期 業績の状況(連結)

(単位:百万円)

	第2四半期		第3四半期(4月~12月)					通期	
	08年度 実績	09年度 実績	08年度 実績	09年度 実績	前年 同期比	対前年 増減率	通期 進捗率	08年度 実績	09年度 予想
売上高	40,261	45,714	66,361	74,579	+8,217	12.4%	75.0%	90,889	99,500
新医薬品	33,046	38,011	55,529	63,068	+7,539	13.6%	76.8%	75,690	82,100
国内新医薬品	31,239	36,733	53,001	61,176	+8,174	15.4%	77.0%	71,935	79,500
海外新医薬品	1,806	1,278	2,527	1,891	▲635	▲25.2%	72.7%	3,755	2,600
後発医薬品*	2,929	3,584	4,583	5,352	+768	16.8%	62.2%	6,264	8,600
ヘルスケア	3,684	3,469	5,392	5,281	▲110	▲2.1%	69.5%	7,725	7,600
その他	600	649	855	876	+20	2.4%	79.6%	1,208	1,100
営業利益	1,243	4,569	5,339	11,045	+5,705	106.9%	92.0%	8,952	12,000
経常利益	1,175	5,172	5,451	11,860	+6,408	117.6%	92.7%	9,208	12,800
当期純利益	▲1,606	3,293	842	7,537	+6,695	794.7%	93.0%	2,037	8,100

※キョーリン リメディオの09年度(2010年3月期)予想は決算期変更を予定しており、14ヶ月分を計上した業績を予想

# 主要製品の売上高について

(単位: 億円)

製品名		第2四半期		第3四半期(4月~12月)				通期	
		08年度 実績	09年度 実績	08年度 実績	09年度 実績	対前年 増減率	通期 進捗率	08年度 実績	09年度 予想
国内 新医薬品	キプレス (LT受容体拮抗剤・ 気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	104	127	181	216	19.3%	75.0%	252	287
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	87	93	153	160	4.8%	74.5%	206	215
	ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	71	97	117	152	30.0%	78.4%	157	193
	ケタス (気管支喘息・脳血管障害改善剤)	26	23	39	36	▲6.9%	77.3%	50	47
	ウリトス(自社販売) (過活動膀胱治療剤)	6	16	13	26	98.9%	69.1%	20	37
	アプレーズ (胃炎・胃潰瘍治療剤)	8	7	12	11	▲7.5%	76.3%	15	14
	ロカルトロール (活性型ビタミンD3製剤)	8	7	12	11	▲8.2%	79.4%	15	14
海外 新医薬品	ガチフロキサシン (バルク・ロイヤルティ含む)	14	11	19	17	▲13.2%	75.0%	25	22
ヘルスケア	ミルトン (哺乳ビン・乳首消毒剤)	9	10	14	15	3.2%	73.6%	18	20

# 開発品一覧①(2010年2月3日現在)

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
	(ガルデルマ社 発売中)	塩酸アモロルフィン ネイルラッカー	爪白癬治療剤	ロシュ	日本初のネイルラッカー製剤	
※PhⅢ (09年12月)		ペンタサ錠	潰瘍性大腸炎	フェリング 社	寛解期潰瘍性大腸炎を対象とした新用法用量 (1日1回投与)	
PhⅡ (05年3月)	(エーザイ PhⅢ)	AS-3201 (錠)	糖尿病合併症 治療剤	大日本 住友製薬	アルドース還元酵素を強力に阻害することにより細胞 内のソルビトール蓄積を抑制し、糖尿病性神経障害を 改善する	・大日本住友製薬と 共同開発(国内のみ) ・PhⅡb(07年9月)開始
PhⅡ (08年2月)	PhⅡ (07年9月)	KRP-104	糖尿病治療剤	自社	DPPⅣ阻害剤。インスリン分泌ホルモンの分解を抑え ることにより血糖低下作用を示す。副作用の発現が 少ない糖尿病治療が期待される	・海外PhⅡb開始 (09年11月) ・国内PhⅡb開始 (09年3月)
PhⅡ (08年8月)	米国:アボット 申請中 欧州他: ムンディファーマ PhⅢ	KRP-108	気管支喘息 治療剤	スカイ ファーマ社	ステロイド及び長時間作動型β作動薬の配合剤で利便 性やコンプライアンスに優れる	スカイファーマ社と ライセンス契約(08年4月)

※: 前回(2010年3月期第2四半期)からの変更点を示す

## 2009年度第3四半期 その他の事項

- ※過活動膀胱治療剤「イミダフェナシン(一般名)」の口腔内崩壊錠 : 2009年12月 承認申請
- ※過活動膀胱治療剤「イミダフェナシン(一般名)」用法・用量の承認事項一部変更 (1日最高投与量の変更) : 2009年12月 承認取得
- ※気道粘液調整・粘膜正常化剤「ムコダインDS50%」 : 2010年1月 承認取得

# 開発品一覧②(2010年2月3日現在)

## POCプロジェクト(前臨床～Ph I)

※: 前回(2010年3月期第2四半期)からの変更点を示す

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
	Ph I (07年7月)	KRP-203	自己免疫疾患、 臓器移植	自社	S1P受容体アゴニスト。新規メカニズムを有する免疫調整剤。既存の免疫抑制剤に比べて安全性が高く、かつ優れた併用効果が期待される	ノバルティス社と ライセンス契約(06年2月)
	Ph I (07年10月)	KRP-105	脂質代謝改善	自社	選択性の高いPPARαアゴニスト。KRP-101よりもさらにPPARα受容体に対して選択性が高い。脂質改善作用に加え、アディポネクチンの増加、レプチンの減少、体重増加抑制作用などが動物実験で確認されており、新たな脂質改善剤として期待される	
前臨床		KRP-107	自己免疫疾患、 臓器移植	自社	S1P1受容体選択的アゴニスト。	
前臨床		KRP-109	急性肺障害	自社	肺移行性の高い好中球エラスターゼ阻害剤。	

## 導入品

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
臨床試験 準備中	Ph III (Merz社)	KRP-209	耳鳴	Merz社	NMDA受容体拮抗作用及びニコチン作動性アセチルコリン受容体拮抗作用を有し、耳鳴に伴う心理的な苦痛、生活障害の改善が期待される	メルツ社とライセンス契約 (09年11月)

# 開発品一覧③(2010年2月3日現在)

## 導出品の状況

※: 前回(2010年3月期第2四半期)からの変更点を示す

製品名・ 開発コード	導出先・ 共同研究先	開発段階	薬効	起源	備考
アルファガン/ アルファガンP	千寿製薬	国内PhⅢ (07年7月)	緑内障治療薬	米国 アラガン社	・アラガン社より導入 (ガチフロキサシン点眼液のクロスライセンス) ・千寿製薬に導出(04年5月)
ケタス	米国 メディシノバ社	海外PhⅡ (05年8月)	脳血管障害治療薬	自社	・多発性硬化症の適応での日本、中国、 韓国、台湾を除く全世界における独占的 な開発、製造販売権を供与(04年10月) 08年4月 PhⅡの結果を公表
KCA-757	米国 メディシノバ社	海外PhⅢ (気管支喘息: 06年11月) 海外PhⅡ/Ⅲ (間質性膀胱炎: 05年5月)	気管支喘息治療薬 間質性膀胱炎治療薬	自社	・日本、中国、韓国、台湾を除く全世界に おける独占的な開発、販売権を供与 ・間質性膀胱炎:07年1月に結果を公表、 開発を中断 ・気管支喘息:海外PhⅢ一旦停止
KRP-203	スイス ノバルティス社	海外PhⅠ (07年7月)	自己免疫疾患、 臓器移植	自社	・移植用の免疫調整剤として、全世界の開発及び 販売権、自己免疫疾患及びその他の疾患用剤と して、日本、中国、韓国、台湾を除く全世界の 開発及び販売権(なお、炎症性腸疾患用剤と しては、全世界の権利を留保している)を供与 (06年2月)

# 主な子会社の業績と予想について

(単位：億円)

杏林製薬	2009年3月期 第3四半期実績	2010年3月期 第3四半期実績	2009年3月期 実績	2010年3月期 予想
売上高	577	654	780	851
営業利益	55	111	85	118
当期純利益	22	81	40	86

キョーリン リメディオ	2009年1月期 第3四半期実績	2010年3月期 第3四半期実績	2009年1月期 実績	2010年3月期 <sup>※2</sup> 予想
売上高	53	62	74	102
営業利益	▲4	2	▲4	3
当期純利益	▲5	2	▲6	2

ドクタープログラム	2009年1月期 第3四半期実績	2010年3月期 第3四半期実績	2009年3月期 <sup>※1</sup> 実績	2010年3月期 予想
売上高	26	25	41	37
営業利益	▲1	▲2	1	0
当期純利益	▲1	▲2	1	0

※1:ドクタープログラムの2009年3月期業績は決算期変更に伴い、14ヶ月分を計上

※2:キョーリン リメディオの2010年3月期予想は決算期変更を予定しており、14ヶ月分を計上した業績を予想